

平成 28 年(2016 年)11 月 4 日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校
校長 末 広 亨

平成 28 年度(2016 年度)全国学力・学習状況調査の結果について

秋冷の候、保護者のみなさまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、4 月 19 日に実施しました 6 年の「全国学力・学習状況調査」結果の分析を行いました。学力調査の結果は、国語・算数とも全国平均より上回っており、概ね良好でした。しかし、更なる努力が必要な項目もありました。課題については、校内で共有し、改善に向けて取り組みを進めてまいります。

以下に、今回の結果分析から見えてきた<のばしたい点>と<今後の取り組み>をまとめましたので、ご家庭でも話題にしていだけますよう、よろしく願いいたします。

なお、豊能町教育委員会による町全体の分析結果は、本町のHPにて公表されています。また、全国学力・学習状況調査の問題・調査用紙やその分析結果は、国立教育政策研究所のHPで公表されています。それぞれご覧ください。

1. 学力調査の結果より

国語

[A問題より]

- ・無回答が少なく、意欲的に問題に取り組むことができた。
- ・目的や意図に応じて、書く事柄を整理したり、表現をよりよくするために助言したりすることができた。
- ・ローマ字については、全問題の正答率が全国平均を上回った。しかし、他の問題に比べ正答率が低く、課題が見られた。
- ・毛筆を使用する書写においての文字の大きさや配列に関する理解が十分でなかった。

[B問題より]

- ・目的に応じて質問したいことを整理したり、質問の意図をとらえたりすることができた。
- ・活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えることができた。
- ・グラフや表を基に、自分の考えを書く問題で課題が見られた。
- ・最後まで取り組もうとする姿勢が見られたが、時間の足りない児童もいた。

算数

[A問題より]

- ・正答率は、全体としても個々の問題についても、ほぼ全国平均を上回った。
- ・四則計算はよくできていた。
- ・単体量あたりの大きさを求める問題や図形問題（三角定規を組み合わせて図形を作る問題）に課題が見られた。

[B問題より]

- ・全体的に全国平均を少し上回った。
- ・日常生活に活用しやすい問題において、資料を分類整理し、必要な情報を収集して解く力に課題が見られた。
- ・全国的な傾向と同じであるが、他の分野と比べると、「図形」分野の正答率が低かった。

国語・算数の結果を踏まえ、<のばしていきたい点>

- ◎学習内容を日常生活の中で活用する力をつける。
- ◎複数の文章や資料から必要な情報を読み取り、論理的に説明する力をつける。
- ◎筋道を立てて、考え方や求め方、理由を式や言葉で表現（書く）する力をつける。

<今後の取り組み> ※国語・算数を中心に全教科にわたって次の点を大切にします。

① 主体的な学びの育成

- ・子どもの主体的な学びを大切にし、意欲的に学ぶ姿勢を育成する。(図形問題に補助線を引いたり、キーワードに印をしたり、自分なりに考えようとする。)
- ・事実・理由を根拠に、自分の意見を書いたりまとめたりする学習を充実させる。
- ・自分の考えをペアやグループ(班)で意見交流する場面を多くつくり、複数の視点から物事を考える力を育てる。

② 活用力の育成

- ・自ら問題を見出し、探究的な活動を通して問題解決する力をつける。
- ・自分の課題を解決するために、パンフレットや地図、図表などの資料から、目的に応じて必要な情報を的確に取り出し、それらに関連づけて読んだり判断したりする力をつける。

2. 学習状況調査の結果より

子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識を調査したもので、次のような特徴が見られました。

《肯定的な意見が多かった項目》

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」「自分には、よいところがあると思いますか。」

自尊感情や自己肯定感は、子どもたちの全ての基盤となるものである。行事や日々の活動を通して、子どもたちが達成感、自己有用感を味わえているといえる。

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」
子どもたちが、教員の言葉を素直に受け入れていることがわかる。また、子どもと教員との関係が良好であると考えられる。
- 「家の人と学校での出来事について話をしますか」
保護者の方々が子どもたちの話に耳をかたむけ、安心して話すことができていることがわかる。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか。」「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか。」
友だちとのかかわりを大切にできていると言える。また、子どもたちが学校の教育活動に対して、目的を持って取り組んでいると考えられる。

《肯定的な意見の少なかった項目》

- 「家で、学校の授業の予習をしていますか。」「家で、学校の授業の復習をしていますか。」
予習については、全国に比べて、肯定的な回答の割合がたいへん高かった。一方で、復習については、肯定的な回答の割合が低かった。家庭学習の必要性は感じていることが伺えるので、復習の重要性も伝え、学習の定着につなげていく必要がある。
- 「国語の勉強は好きですか。」
全国と比べて、肯定的な回答の割合がたいへん低かった。一方で、国語の勉強は大切だと回答したり、将来役に立つと回答したりしている。今後も、学校全体で、子どもたちにとって、楽しく、わかる授業をつくっていく必要がある。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、上手く伝えるように話の組み立てを工夫していますか。」
相手を意識して発表することに、苦手意識が見られる。どうすれば相手に自分の考えや思いを伝えられるか、授業のなかで考えたり、実践したりする必要がある。

〈良好な点〉

- ◎ ものごとを最後までやりきることができる。
- ◎ 子どもたちと教員との関係が良い。
- ◎ 各家庭が、学校の教育活動に関心を持ち、子どもとの会話を大切にしている。

〈のばしていきたい点〉

- ◎ 自分自身をより大切に、また、周りも大切にしようとする気持ち。
- ◎ 相手を意識して発表する力。
- ◎ 学校で学んだことを家庭でふり返り、定着させようとする姿勢。

そこで、次のことを大切にしながら、今後の取り組みを進めていきます。

〈今後の取り組み〉

- ① クラスでの集団づくりや異年齢との交流を通して、「認めてもらった」「感謝された」という経験を積み、自尊感情を高める。それと同時に、相手の立場を考えられる心を養う。
- ② 相手を意識して発言する場を授業のなかで設ける。また、意見の効果的な伝え方を学習する機会を持つ。
- ③ 子どもたちが「ともに学び・活動する喜び」を味わえる授業を心がける。